

はなぞの ファミリーサポート・レター

第1号（令和2年9月）

はじめに

私たちは、患者家族の皆様への支援を目的に活動している“はなぞのファミリーサポートチーム”と言います。平成30年に結成し、家族向けの勉強会と懇談会を昨年7月に行いました。参加されたご家族からは好評をいただき、同企画の第2回の準備をしていたのですが、新型コロナウイルスの影響により無期限の延期となってしまいました。

このような状況でも行える家族支援の形を考えるなか、精神医療のトピックなどをお伝えする当レターの発行に至りました。不定期発行の第1号、どうぞおつきあいください！



新型コロナ～精神医療と当事者はいま

今年5月に、同タイトルのテレビ番組（ハートネットTV）がNHK Eテレで放送されました。全国の精神科病院でのクラスター感染発生とその対策が紹介されていたのですが、病棟はそもそも密な環境であり、精神疾患の特性（状態によってはマスク着用のルールを守ることが難しい等）から、対応に苦慮する様子が伝えられていました。

● 当院の入院環境でのコロナ対策

当院も、職員一同コロナ対策に尽力しています。病棟では、密を避けるために食堂ではなく病室で食事をする、密集しないよう活動場所を分けて療養するなど、患者さんにもたくさん協力していただいています。

OTのプログラムでは、新型コロナウイルスの正しい知識を身につけるための講座や、布マスク作り（何十年ぶりに針と糸を握ったなんて方もいらっしゃいました）を行っています。

ご来院の皆様にも、来院時の検温・問診、面会の頻度減・時間短縮など大変ご協力いただき、おかげ様で、現在に至るまで当院利用者・関係者でコロナウイルスに罹患した方はいません。

コロナ対策の日々は長く続きそうですが、今後も皆様にご協力いただき、この難局を乗り越えたいと思っています。



● 外来でのコロナ対策について

番組の内容に戻りますが、多くの病院で外来診察を電話やオンラインでの診察に切り替えている様子、精神症状の悪化のために入院を希望しても「病院内にウイルスが入ること」を恐れて断られる・受け入れまでに時間がかかるケースが増えていることが紹介されていました。

当院も外来診察の大部分を電話診察に切り替え、対面での診察についても頻度を減らすことで患者さんの感染リスク回避に取り組んでいます。また、4月に緊急性の高いもの以外の訪問看護は休止し、5月にはデイケアの運営も休止しました。

デイケアについては緊急事態宣言解除や市井の状況に応じて、6月半ばより運営を再開しています。再開直後、外来患者さんやご家族より「仲間に会える場がなくなって辛かった」「ずっと家にこもっていたので、家族として心配が募った」等のご意見を多数いただきました。



STAY HOME

そんな中で「ステイホーム期間に、これまでやっていなかった自炊を始めた」という方もいらっしゃる、ピンチをチャンスに変える発想、これまでのやり方に固執せず with コロナの生活様式を作っていくことも大事だなと職員が学ぶこともありました。



コロナウイルスの影響で家族間の距離が近づきすぎることの問題は、精神疾患の有無に関わらずDV・虐待の増加など報道されています。

患者さんをご家族が良い関係を保てること、家族内で全ての苦労を背負わない仕組み作りは精神医療の重要な役割です。これからも支援の方法を模索していきたいと考えています。



はなぞのファミリーサポートチーム メンバー

心理室 岡村、相談室 宗本、OT室 角田・平田、デイケア 上村